

オープンフォーラム in 北海道「大切な赤ちゃんを亡くしたとき～知ってほしい、私たちの思い～」は大盛会のうちに終わりました。お忙しい中、フォーラムを開催するにあたり早くから準備をして頂き、サポートして頂いた演者の皆様、会のスタッフの皆様、そしてご自分の経験をお話しして頂いた家族の皆様。皆様の協力なしではこのフォーラムは成り立ちませんでした。心よりお礼を申し上げます。

約1年前から準備を始めたオープンフォーラム in 北海道。まずはテーマを決めることから始まりました。場所はどこにしよう、演者は？後援って？とにかく何もかも初めてです。手探り状態でスタートしました。医療者との架け橋になるような会のことを知ってもらおう、必要な情報を必要としている人に届けられるように、そして必要なサポートを受けられるように、皆さんのお力を借りて徐々に形になってきました。打合せも何度も重ね、道内各地から、東京からも打合せに参加されました。先生方のご協力と行動力なしにはこのフォーラムは成功しなかったでしょう。厚労省の後援は大きなことでした。仁志田先生・小保内先生、そして南関東管家 BF に足を運んで頂きました。抄録への広告掲載という形でスポンサーも獲得しました。会場の手配や道内での後援先もアドバイザーの先生方のおかげです。1年前では会場の手配はかなり厳しい状況でしたが、中心地の好立地にしかもほとんど無料で利用することができました。会場設営もまたアドバイザーのご協力で素晴らしいものになり、記録も残すことができました。当日は当初の予想を上回る参加者を迎えました。2週間前までは80名程でしたが、開催直近での申込が急に増えました。特に前日の問い合わせが増え、当日の参加者もありました。当日は全国、道内からたくさんの方が足を運んで頂きました。実際の参加者数147名でした。医師を含む医療従事者が多く、中でも看護師、助産師が多かったです。遠方からの遺族の参加もありました。足を運ぶ勇気を考えると、告知を見ている人はもっといるかと思います。質問などの意見交流も活発に行われました。

告知はチラシを3500枚作成し、医療機関、大学（看護・保育）、公共機関（道庁、市役所、保健センター、図書館、地区センター等）、後援先関係に配布、陳列をお願いしました。アドバイザーの先生によるネットワーク、メーリングリストも活用して頂きました。地元の北海道新聞での事前の取材、前日の告知記事、朝日新聞の告知記事や助産雑誌（医学書院）、ネオネイタルケア（メディカ出版）にも掲載されました。終了後の記事も北海道新聞で取り上げて頂き、フォーラムの成果を上げたと思います。

アンケートでは、ほとんどの参加者がサポートグループの存在を知らず、経験したことのある医療者はどう接していいのかわからなかったとの記述が多く、グリーフケアには関心はあるが、教育としては受けていないが多く、グリーフケアについての教育の充実を必要とする声も上がりました。体験者の話しを初めて聞く人がほとんどでした。学生は看護系と保育系と分かれましたが、どの学生も熱心に聴いていました。アンケートの記述もかなりの量でした。反面、会とのコンタクトに希望する人は少なく、検討中と答えた人が半数くらいでした。

今回のフォーラムは現状を広め、会を知らせる良いきっかけとなりました。これからの活動にも繋げていきたいと思います。今回のフォーラムは地区内でも、とても良い結果をもたらせてくれたと感じています。